

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107 JNGL1108
2. 授業担当教員	新井 美也子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。</li> <li>2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。</li> <li>3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。</li> <li>4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。</li> <li>5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1, レポート課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 要約型 (文学作品の批評) レポート</li> <li>(2) 説明型 (定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説の比較) レポート</li> <li>(3) 論証型 (少子高齢化社会の課題と解決の方策等各自が設定したテーマ) レポート</li> <li>(4) 口頭発表会の資料 (パワーポイント)</li> </ol> <p>* それぞれのレポート作成に関する本や資料などの収集</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大島弥生共著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 (第2版)』ひつじ書房、2014年。</p> <p>【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック第6版』三省堂、2018年。</p> <p>* 必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。</li> <li>2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的参加 (発言、討議、取り組み等) 総合点の30%</li> <li>2 レポート (小課題を含む) 総合点の70%</li> </ol> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語や作文は苦手と考える人も大丈夫。大学生として必要なレポート作成を初めて体験する大学生を対象にした授業です。「レポートの書き方・発表の仕方」を習得してもらいます。</p> <p>学習方法は、仲間同士がお互いの文章をよりよくするために話し合い、そこで議論されたことを参考に、書き手が文章の構想を練り直し、推敲を重ねていくピア・レスポンス活動で進めます。こうした共同学習から、内容を深め、文章表現を洗練し、レポートの質を高めていきます。ピア・レスポンス活動の成否は、個々の努力にかかっています。協力し合い、クラス全体で、社会が必要としているコミュニケーション能力のレベルアップを図りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	30秒スピーチ「自己紹介 (私の愛読書を入れて)」 科目のガイダンス (授業の進め方・グループ編成等)	事前学習	愛読書 (文学作品) に触れた自己紹介を30秒程度でスピーチできるように準備しておく。
		事後学習	自他の愛読書を再読する。
第2回	レポート作成の基礎・基本 ・作文・レポート・小論文の違い ・レポートの種類 ・レポート作成のプロセス	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品「形」を音読し、主題に関連する文章を記録しておく。
		事後学習	レポートの種類・作成のプロセスについてまとめる。
第3回	レポート作成1 ・要約型 (文学作品の批評) レポートの作成	事前学習	教科書P5からP22まで熟読しておく。
		事後学習	要約型レポートを完成する。
第4回	レポート作成1 ・要約型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	「説明型レポート作成」で使用する文章を音読しておく。
		事後学習	教科書P23からP54まで熟読する。

第5回	レポート作成2 ・説明型（定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説の比較）レポートの作成	事前学習	少子高齢化社会の課題と解決の方策等に関する新聞記事を収集しておく。
		事後学習	説明型レポートを完成する。
第6回	レポート作成2 ・説明型レポートの完成（話し合い・推敲・清書）	事前学習	各自のテーマに関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	教科書P55からP84まで熟読する。
第7回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 構想を練り、情報を調べる。 ② テーマを絞り込み目標を規定する。	事前学習	各自のテーマに関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	各自のテーマに関する本を補足する。
第8回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 文章を組み立てる ② 組み立てを再検討する ③ 中心部を書く。	事前学習	各自のテーマに関する本や資料を補足しておく。
		事後学習	レポートの組み立てを完成させる。 序論を完成させる。
第9回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 本文を書きこんでいく。 ② 数値データと図表を根拠部分に使う。	事前学習	組み立てと序論の見直しをしておく。
		事後学習	本論を完成させる
第10回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 引用しながら書く。	事前学習	本論の見直しをしておく。
		事後学習	結論と引用を完成させる。
第11回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 文章・表現・形式を点検する。	事前学習	レポートを見直しておく。
		事後学習	話し合いを活かして加筆・削除など修正する。
第12回	レポート作成3 ・論証型レポートの作成 ① 口頭発表の準備（発表資料作成）	事前学習	レポート全体を見直しておく。
		事後学習	パワーポイントなどで発表資料を完成する。
第13回	レポート作成3 レポート発表会のリハーサル・最終確認	事前学習	パワーポイントなど発表資料を修正しておく。
		事後学習	口頭発表会の確認をする。
第14回	レポートの口頭発表会1・評価・交流	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	相互評価を見直す。
第15回	レポートの口頭発表会2・評価・交流 文章表現の成果と課題	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	これまでの学習を振り返る。